

丹沢・中川川・鬼石沢右俣・モロクボ沢

T野

2023年8月19日～20日

メンバー： T野・T中m・H多



当初の予定は、谷川連峰の万太郎谷・井戸小屋沢右俣で、メンバーも6名集まり盛況であった。しかし、今年は特にこのパターンが多いのだが、またしても異常高温により、気圧が不安定となり、山の中はいつどこで雷雲が発達しても全く不思議ではない状況となり、行きたい山の天クラはどこもCランク。計画していた万太郎谷は、扇状に枝沢が多く、短時間でも大雨が降ると一気に増水するためリスクが大きすぎる。こういう状況下でハラハラドキドキしながら遡行するのは本意ではないので、残念ながら今回は中止として、転進先を考えることにした。

ただ、直前まで天気が読めず、現地敗退も充分あり得るため、今回はお財布にやさしい場所、つまり近場に絞って候補地を探した。すると、なぜか丹沢だけが、天クラがAもしくはBとなっているではないか。丹沢には、はなはだ失礼ではあるが、今回、これが決め手で転進先は丹沢の沢に照準を絞った。いわゆる消去法というやつだ。さんざん悩んでこれが決まったのが出発前日の昼頃である。この転進劇で次々にメンバーが参加を辞退する中で、最終的に2人がメンバーとして残ってくれた。ギリギリのドタバタでも文句も言わずに同行してくれたmさんとH多さんにはただただ感謝である！！

■写真上 鬼石沢のアプローチでみた巨大なキノコ。

■写真中 鬼石沢F2にて。

■写真下 F2をリードするH多さん。

さて、ここで非常に唐突ではある



象が良かった沢である。

以上、前置きがだいが長くなりましたが以下、報告です。

が、丹沢といえば思い浮かぶのはヒルの存在である。特に今年は気温が高い日が続いているので、さぞかし活発に動き回っていることだろう。「丹沢なら久しぶりに「小川谷廊下」に行ってみたいなあー！！」と一瞬思ったが、近々の記録を読むと小川谷廊下の「ヒル祭り」は今、まさに活況を呈しているようである。今年は、図らずも奥久慈の沢で「アブ祭り」に参加してしまい腕を中心に100力所近く噛まれ、その後、鳥海の沢では、気がつく「ブヨ祭り」に参加

していたようで、アブの腫れがようやく引いた腕が再びポコポコになってしまい、それが漸く治まってきたところである。今回、「小川谷廊下」を計画すれば、夏の3大祭りといわれる「アブ」「ブヨ」「ヒル」の「3大祭り」をひと夏で制覇するにはまたとないチャンスである！！

しかーし・・・！！である。ぶっちゃけ、もう虫はこりごりなのである。もともと、そんな祭り全く興味ないし・・・というかできるだけ避けて通りたい方だし・・・。

■写真上 F3をフォローするmさん。

■写真中 F4を楽しくシャワーライミング！！

■写真下 F4

ということで、今回は丹沢にあってもヒルの被害をほとんど聞いていない花崗岩の沢である「中川川流域」に絞って計画することにした。滝登りが楽しめる鬼石沢右俣と、癒しの美溪、モロクボ沢の日帰り2本である。両方とも、再訪の沢であるが印



8/19 鬼石沢右俣

前夜は「道の駅 山北」の軒下を借りて仮眠。平地なので暑くて眠れないのは・・・と心配していたが、さすが郊外で沢の傍だけあって、それほど寝苦しくはなく、明け方にはシュラフをかけて寝たほどであった。夕立が来る前に下山したいので、早めに出発して入山地の大滝キャンプ場に向かう。キャンプ場の許可を得て車を駐車し

(¥1100)、7:00に出発するが鬼石沢のアプローチはそこそこ長い。そのため、同じ流域でアプローチの短いマスキ嵐沢に人気を取られ、10人いれば7~8人はマスキ嵐沢を選択するであろう。マスキ嵐沢は確かに短い沢に手ごろな滝をたくさん懸けて全て直登できるので、人気があるのも頷ける。しかし、鬼石沢右俣もアプローチこそ長いですが、楽しさではマスキ嵐沢に負けていない。滝のレベルは1ランク上になるが、ぜひお薦めしたい沢である。

■写真上 ナメで憩う！！

■写真中 F5巨岩の滝。右にある岩の穴からずり上がる。

■写真下 右俣の侮れない滝。

一軒家避難小屋まで約1時間半のアプローチをこなし、ここから入渓する。堰堤を一つ越えるとすぐに10mクラスの滝が現れる。F2である。最初の滝だがF1ではない。なぜならアプローチで巻いてきた雨棚という大滝がこの沢のF1だからである。雨棚は本格的なクライミングとなり、この滝の登攀を含めて逆行すれば、鬼石沢は一気に丹沢の



中でも超上級向きの沢に変貌する。僕はもう登ることはないと思うが、腕と度胸に自信のある人は、ピッチグレードV級A1で支点も不安定な雨棚登攀から継続すれば、かなり充実すると思う。

さて、F2は右壁をH多さんリードでスルスル登る。傾斜も緩く、慎重に登れば特に問題はない。続いて現れるのは20m滝、F3である。ここは左壁を僕が登る。しっかりした支点もあり、ラバーソールがバチ効きで

快適に登れる。一応、この滝が鬼石沢の核心部になっているらしい。



■写真上 右俣のナメ。

■写真中 小難しい滝。

■写真下 こんな感じのスラブ滝が無数にある。

この滝を超えると、沢は穏やかになる。人の手の入った場所もあり、ちょっと趣を削がれるが、再び美しい溪相となると、直登できる小滝（F4）や美しいナメが連続して気持ちよく遡行できる。しばらく行くと、この沢の名前（鬼石）となったのでは？と思われる巨岩の滝（F5）が現れる。苔むした巨岩は、まるでどこかの庭園に鎮座しているかのようで、日本のワ



ビサビの世界である。ここは岩の間を潜り抜けるように登るのだが、こういうところは、H多さんの独壇場であつという間にスルスルと攀じ登ってしまう。体の硬い僕にとって、こういう場所は苦手で、H多さんからシュリングをもらって、力任せに何とかずり上がる。さて、あと一人、大物を釣り上げねばならぬ。そう、mさんである。H多さんと二人がかりで釣り上げるが、もう少しで上



がりそうになったところで、思わず「H多さん、タモ！！」と叫びそうになった。
〈若干脚色あり〉

この巨岩を越えれば二俣はすぐである。一般的には左俣が良く紹介されているが、滝登りを楽しむのなら、断然右俣がお薦めだ。ただ、右俣に入る場合、この沢の核心部は、F3ではなく、右俣の連瀑の突破になる。特別大きな滝はなく、3~5m程度の滝が多いが、どの滝もスラブ状で、ホールドスタンスに乏しく、微妙なフリクション登攀が主体になる。それでも、堰堤下の7m滝以外は全て直登が可能なので、ムーブを考えながら次々と滝を攻略していくのが非常に楽しい。(7m滝の巻きは右岸をやや大きめに堰堤まで巻く)



- 写真上 モロクボ沢大滝。
- 写真中 大滝の下で憩う。
- 写真下 美溪を攀じる！！

次から次に小難しい滝が現れるが、巻きも急峻で悪いところが多いので、基本、直登した方が良い。ラバーソールがバチ効きなので、一見、ツルツルで登れないと思うところも、案外登れてしまうものだ。今回、我々も堰堤下の7m滝以外は、全て直登した。ただ、僕のレベルだと、右俣の中間部にある、少し大きめの5mくらいの滝で、1カ所セミになってしまい、H多さんに巻いてもらって、お助けを上から出してもらった滝があった。結果的にはラバーソールのフリクションで行けたが、手掛かりもなく、高さもあり、落ちたら大ケガは免れないので、どうしても1歩を





踏み出す勇気がでなかった。支点が取れば思い切って行けそうなのだが、リスのないスラブなのでそれは叶わず、登るにはある程度、バランスと度胸が必要な滝である。この滝は巻く場合は右岸だが、ザレザレで巻きもやや悪い。

さらに、その後も滝はこれでもかというほど続くが、この2つ以外は概ね楽しく突破できる。源頭付近で沢がザレザレしてきて登り辛くなってきたら、右岸の尾根に上がって着実に尾根を辿れば、畦が丸の避難小屋の前に詰め上がる事ができる。

下山は、東海自然歩道を降りる。大滝キャンプ場まで約2時間ほどだが、後半は沢沿いの緩い道なので、下山路としては楽な方で、思ったより快適に降りることができた。途中、登山道から見下ろした大滝沢本流下部は、キレイな溪相でキャニオニングをしているツアーもあるほどなので、夏の暑い日にバシャバシャ濡れながら遡行するのも楽しいかもしれない。

■写真上 ご機嫌だぜ！！

■写真中 気持ちいい！！

■写真下 美渓だぜ！！

今回、2018年以來、5年ぶり2回目の遡行だったが、相変わらず美しく、充実した中身の濃い沢であった。僕はラバーソールを使用したけど、ヌメル場所もなくグイグイ登れて非常に快適だった。フエルトソールできたmさんは、二俣上のスラブ滝連瀑帯では、フリクションが効かず、かなり苦勞をしていた。ということで、今回、ここはラバーソールが圧倒的に有利であった。



また、ヒルはもちろん、虫の被害が全くなく、歩いていても顔にまとわりつくことも皆無で、久しぶりにストレスのない快適な沢歩きが楽しめた。

ちなみに、今晚の泊りは車を置かせてもらった大滝キャンプ場に求めた(車1台 ¥6600)。川沿いの1段上がったところで、さすがはキャンプ場だけあって非常に快適であった。ここは子供連れで水遊びをするにも適していて、周辺の沢登りのベースとしてもお勧めだと思う。



■コースタイム

大滝キャンプ場 (7:00) ~
(8:11) 一軒屋避難小屋
(8:30) ~ (8:50) 10m滝 F
2 (9:10) ~ (9:15) 20m滝
F3 (9:30) ~ (10:20) 巨岩
の滝 (10:30) ~ (10:40) 二
俣 ~ (13:30) 蛙が丸避難小
屋 (13:40) ~ (15:40) 大滝
キャンプ場

■写真上 快適な遊行！！

■写真中 美渓だぜ！！

■写真下 淵をハツル！！



8/20 モロクボ沢～越場沢

昨日、結構充実したので今日は軽めの癒し系、ということでチョイスしたのがこの沢である。過去に2002年に本流、2011年と2012年に本流～水晶沢を遊行している。いずれもかなり昔の話で、大滝から堰堤までが美渓だったこと以外、沢の記憶はほとんどない。昨日同様、午後の夕立を避けるべく、美味しいところ取りのショートカットルート



として考えたのが、本流途中から越場沢を登り善六のタワに出るルートである。これなら下山も楽である。

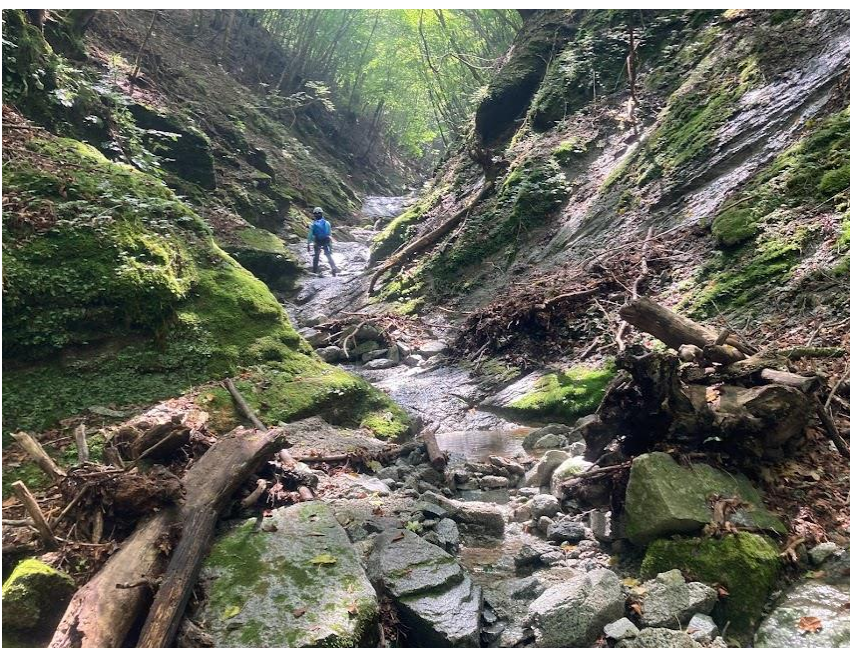
6:30 西丹沢ビジターセンターに車をデポして出発。約1時間車道を歩き入渓点へ。準備して7:38入渓。しばらくは平瀬を歩く。意外に長く感じたが7:58、大滝が現れる！！さすがに立派で、初見でみたらちょっと感動しちゃうところだろう。ここは、右岸を登って巻くが、傾斜は急なもの、頼りになる木の根が結構あるのでそれほど不安はない。確か以前は落ち口まで直接行けたと思ったが、途中が崩壊したようで、一度少し高い場所まで上がって、安定した場所を右にトラバースして5mほど懸垂下降して落ち口に達した。この方法が一番安全に巻けると思う。



■写真上 ラバーソールが吸い付くぜ！！

■写真中 美渓はあっという間に終わって苔むしたゴ—口が続く。

■写真下 越場沢の溪相。



ここから次の堰堤までがこの沢の白眉である。苔むした岩盤が発達して、ナメと小滝が交互に現れ淵も発達していて、とにかく美しい区間である。短い丹沢屈指の渓谷美が楽しめる場所である。ここはじっくりと時間を取って楽しみ、途中暑くなりそうなので、淵に浸かってしっかりクールダウンしておく。H多さんは初見なのでその美しさに感動しているようだった。



mさんは今回 3 回目のはずだが、全て忘却の彼方のようなので、きっと新たな気持ちで感動していたのではないだろうか？

■写真 越場沢上部は急峻だ。

さて、堰堤を越えると、沢は一気に穏やかになる。すぐに水晶沢を分けて、苔むしたゴーロが連続する。やがて顕著な沢が右岸から合流する。これが越場沢である。ほとんど水は流れておらず、涸沢と思ったが、遡行していくと少量ながら水は流れていて、ナメが連続するようになる。さらに遡行すると、傾斜が増し徐々に険しくなってくる。フェルトソールでは厳しい場所もあり、mさんがなかなか登って来ないので上から目線で覗いていると「ボオーっと見てないでサッサとロープ出しなさいよ！！このバカチンが！！」<多少脚色あり>と怒鳴られる。mさんの的には結構ヤバイ状況だったようだ。ということで、上

部で何回かロープを出したので、今日の核心部は間違いなく、この越場沢上部であった。

最後はますます急になり、ザレてきたので沢筋を行くのが難しくなり、急な尾根にルート求めて木の根を頼りに何とか登って行けば、善六のタワ近くの登山道に詰め上がった。

この沢もラバーソールがバチ効きなので、ラバーソール推奨です。もっとも、mさんのフェルトソールはフェルトが減っていて、ほとんど残っていないようなボロ靴だったので、ちゃんとしたフェルトソールなら少しはマシだったのではと思う。mさんは「もうこれはいらない、N野さんにあげようかな？」とボソツと言っていた。〈若干脚色あり〉

思った通り下山は2時間とかからず、しかも後半は緩やかな沢筋の道だったので、膝にも優しく助かった。

今回、温泉はいつも行く「ブナの湯」が満員で入れなかったため、「温泉&リゾートグランピングスプリングヴィレッジ」(¥1000)という宿の日帰り温泉を初めて利用したが、「ブナの湯」が満員なのに、ここは誰も入っておらず貸し切りで楽しめた。料金は少し高めだが、この快適さはまるでエコノミーとファーストクラスの違い、ということで穴場である。食事は、松田の街にあるサイゼリアで打ち上げ。この時間はなかなか空いているところがなく、どうしてもこういう無難なチェーン店になることが多い。

モロクボ沢は下部に見どころが集中していて、上部は平凡になる傾向がある。今までに水晶沢と本流、それに今回、越場沢を遡行したが、滑棚沢はまだ未遡行で、記録を見ると、どうやらこの沢が上部も滝が多く一番面白そうである。機会があれば次回は滑棚沢を詰めてみたいと思った。

ところで、この日、12:30 頃、隣の水無川で鉄砲水が発生して11人が流されたということだ。幸いにも死者は出なかったようであるが、中川川は一滴も雨は降らなかった。「どこに雷

雲が発生しても何の不思議のない天気」というのはホントであった。我々はたまたま運よく雨に当たらなかっただけなのだ。まあ、運も実力のうちである。とはいえ、謙虚な態度で今後も楽しみたいと思う。mさん、H多さん、いつもながら急な転進にお付き合いいただき有難うございました！！おかげで充分楽しい週末を過ごすことができました。また、mさん、報告で少しじらしていただきました。平にご容赦を・・・。

■コースタイム

西丹沢ビジターセンター (6:30) ~ (7:20) 入渓点 (7:45) ~ (8:00) 大滝 (8:30) ~ (9:35) 堰堤上 ~ (10:10) 越場沢出合 (10:15) ~ (11:25) 登山道 (11:40) ~ (13:15) 西丹沢ビジターセンター